

普及・教育・研究活動報告（2016年度）

1. 2016（平成28）年度の普及活動

1) 展示・情報公開

a. 埋蔵文化財調査部門サテライト館の公開

埋蔵文化財調査部門では、総合博物館サテライト館のひとつとして展示室を整備し、構内遺跡で出土した資料を中心に展示公開を行っている（開館日：月曜日～金曜日 祝日および12月28日～1月4日を除く 開館時間：10時～17時）。2016年度の来館者は476名（前年比1.06）であった（2007年5月のリニューアルオープンからの延べ来館者5,485名）。

1年を通してみると、4月から6月に教養ゼミの広大生110名（昨年度28名）、8月はオープンキャンパス48名（昨年度14名）、11月は大学祭で展示室を開館し23名（昨年度ワークショップを行い89名）の来館があり、その他に団体見学として、広島大学理学部留学生（9月：18名）、江田島市沖美公民館（10月：25名）、郷田小学校（12月：55名）の受け入れをおこなった。毎年行っていた東広島市との共催による「親と子の体験歴史村」については、今年度の会場が広島大学ではなかったことや、大学祭においてワークショップを行わなかったことなどによりその時期の来館者は減少したが、教養ゼミの利用やオープンキャンパス時の来館者が増加したことが幸いし、結果としては昨年度より来館者数は増加した。また後述するが、今年度も広島市内の2施設において資料貸し出しによる共催展示を実施し、所蔵資料の公開活用に努めた（全会期計1,670名）。

サテライト館展示室においては、室内を仕切るように設置していた展示ボードを撤去し、展示室全体を見渡せるように改修をおこなった。撤去に伴い、団体見学などの一度により多くの見学者を受け入れることができるようになった。広く空いた部分に「触ってみようコーナー」と「図書コーナー」を展示室内に移動させた。また、展示室のどこにどの時代の資料が置かれているのかが分かるように、時代名を記したキャプションの設置もおこなった。さらに、エントランスでは展示室の表札を親しみやすいものに張替え、遺物や調査写真などを映写していたモニターを机の上から展示棚の側面に取り付けて、机の上にはクロスワードパズルの用紙やニホンジカの骨格標本を並べた。骨格標本は自由に触ってもらえるものとして人骨の連結レプリカ標本を並べ

て設置し、部位の場所やそれぞれの形を比較してもらうコーナーとした。



写真 10 展示室見学の様子 1



写真 11 展示室見学の様子 2



写真 12 整理室見学の様子



写真 13 移築遺構見学の様子



写真 14 展示室展示ボード撤去後の様子



写真 15 展示替え後の様子

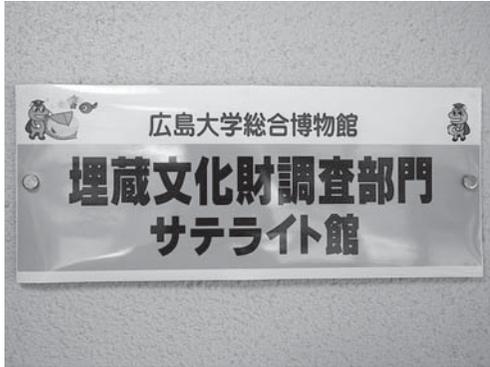


写真 16 設置した展示室表札



写真 17 エントランス改修後の様子

b. 展示「戦争を見てきた食器たち 2016」（実施期間：2016年7月10日～8月25日）

昨年度（2015年度）実施した広島市内巡回展「戦争を見てきた食器たちー広島大学構内から出土した文化財ー」を契機に、今年も広島市内での展示を行った。本年度は大河公民館（広島市南区）が毎年実施している平和事業「夏休みこどもピーススクール」（大河地区青少年健全育成連絡協議会主催）との共催により、「戦争を見てきた食器たち 2016」として開催した。霞地区と翠地区から出土した軍用食器や統制食器、防衛食容器などの近代資料を展示し、それらの資料が出土した地点の調査の様子についてパネルで解説した。会期中、親子で平和への学びを深めるため、被爆体験者（講師：切明千枝子氏）の話を聞き、戦時中の食事「すいとん」を作って食べるイベントが行われ、当時利用されていた食器類についての展示解説も実施した。会期は当初1か月を予定していたが、延長して約1か月半の間開催し、来館者は230名を数えた。霞地区などの広島市内の調査地点で出土した近代資料は、戦時中の歴史や文化、および平和学習において非常に有益なものであり、幅広く活用することができるものだといえる。



写真 18 展示のチラシ



写真 19 中国新聞ファミリー南區版



写真 20 展示の様子



写真 21 イベントの様子

c. 第 8 回ふむふむギャラリー「海辺のムラから町へ地御前南町遺跡」(実施期間：2016 年 10 月 31 日～12 月 2 日)

埋蔵文化財調査部門には、キャンパス内の遺跡から出土した資料以外にも寄贈資料やこれまで調査室（調査部門）に在籍した職員による学術調査資料などを所蔵している。これらの貴重な出土資料を広く一般に公開することも重要な使命であることから、整理が終了したものについては、順次展示公開を行っている。この度、廿日市市在住の今田三哲氏が試掘調査を行った資料や工事中に採取した資料の寄贈手続きが完了したため、それらの中から地御前南町遺跡の出土資料の展示公開を行った。

展示では遺跡から出土した縄文時代と中・近世の遺物を展示した。縄文時代では、前期～晩期の縄文土器、打製石器（石鏃、石匙、スクレーパー、敲石、石錘など）を展示した。中近世では、輸入磁器（青磁碗・白磁碗）、備前焼・播鉢、瀬戸天目碗、土錘、硯などを展示した。期間中の 11 月 5 日（土）・6 日（日）には大学祭が行われた。通常、土・日は閉館であるが、2 日間のうち、5 日（土）は開館した。



写真 22 第 8 回ふむふむギャラリーのチラシ



写真 23 展示の様子

d. 第10回ふむふむギャラリー「広島考古学よもやま展示 - 広島城跡から出土した文化財の展示（ロビー展） -」（実施期間：2016年11月19日～2017年1月22日）

公益財団法人広島市文化財団文化財課および舟入公民館との共催により、広島市中区の舟入公民館において展示を行った。広島城跡から出土した食器類や瓦、土人形などの遺物と貝殻や魚骨などの動物遺存体を展示し、発掘調査の様子をパネルで紹介した。遺跡の発掘調査と広島城下における近世の食料事情や動物とのかかわりについて知ってもらう機会とするため、広島市文化財団文化財課および公民館とともに企画した。期間中1,440名の来館があった。広島市内には考古資料を常設展示している施設がなく、本展示は広島市内の住民に地域の遺跡や歴史について間近に触れる機会として有意義なものであったと言える。

展示期間中には、広島城跡の調査成果や出土遺物からわかる当時の暮らしについて学ぶ、以下に記した内容の舟入公民館講座『広島考古学よもやま話』（全3回）が開催され、第1回目の講座当日には展示解説を実施した。

第1回（11月26日）：石丸恵利子「広島城武家屋敷の食事と暮らしの中の動物たち」

第2回（12月17日）：幸田淳「広島城二の丸発掘調査と復元」

第3回（2017年1月21日）：大室謙二「発掘調査でわかった広島城」

広島考古学よもやま話

11月26日（土）10:00～12:00
「広島城武家屋敷の食事と暮らしの中の動物たち」
 講師：広島大学総合博物館学芸員 石丸恵利子
 司会：幸田淳
 広島城跡の発掘調査によって、武士の食生活や動物の骨が見つかっています。また、動物の骨をもした様々な土人形も興味深い資料です。これらは当時の食生活や動物との関わりについて、私たちに教えることを期待しています。
 第1回目は、広島城でどのような生きものが食べられ、どんな動物とかがわかってきたのかについて紹介します。

12月17日（土）10:00～11:30
「広島城二の丸発掘調査と復元」
 講師：公益財団法人広島市文化財団 元文化財課長 幸田 淳 さん
 広島城の発掘調査は、1999年の広島城築城400年を記念して始まりました。この発掘調査の復元成果がきっかけで、その後の、広島城関連の発掘の再発見がいろいろとあり、広島城に関する発掘調査が再開されることになりました。
 第2回目では、そのきっかけとなった、二の丸の調査の様子や復元にまつわるよもやま話などが紹介されています。

1月21日（土）10:00～11:30
「発掘調査でわかった広島城」
 講師：公益財団法人広島市文化財団文化財課 主任学芸員 大室 謙二 さん
 広島城跡の発掘調査は、正に1999年7月以降約20回行われ、発掘や調査の結果として様々な遺物や発見がいろいろとあり、その中でも注目していた土器類などの遺物が数多く発見されています。これらの発掘資料によって、文字資料や地図からだけではわからなかったことが実際に明らかになりました。
 第3回目では、発掘調査がもたらした発掘調査の様子や成果を紹介します。

●**広島考古学よもやま展示**● → 広島城跡から出土した文化財の展示（ロビー展）
 【広島市文化財団 第10回ふむふむギャラリー】
 講座の開催に併せ、広島城跡から発掘した動物の骨、土人形、その他遺物等や絵図を展示します。当時の暮らしや歴史に思いを馳せてみてください。
 ※ワークショップイベントとして、講座第1回目には講師による特別解説を予定しています。
 ■展示期間／平成28年11月19日（土）～平成29年1月22日（日）
 ■場 所／舟入公民館 1階ロビー

写真24 第10回ふむふむギャラリーのチラシ



写真25 展示の様子



写真 26 展示解説の様子



写真 27 講座の様子

e. 刊行物

『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第8号（2017年3月刊行）

埋蔵文化財調査部門の研究および調査の成果と普及活動の年度報告を発信するもので、研究編に研究論文1稿、調査編には「開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2014年度）」、普及・教育・研究活動報告編には「普及・教育・研究活動報告（2014年度）」、付編には「総合博物館埋蔵文化財調査部門の組織（2014年度）」が収められている。



写真 28 紀要表紙

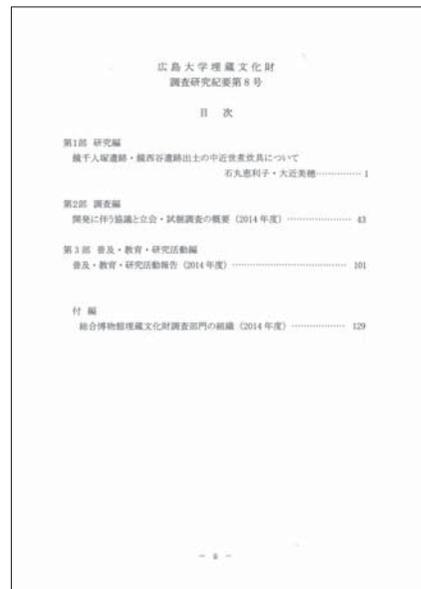


写真 29 紀要目次

『HUM-HUM』 Vol. 9 への寄稿 (2016年6月発行)

広島大学総合博物館のニューズレターに、埋蔵文化財調査部門の2015年度の活動の一部を紹介した。イベントピックアップ欄に3件の報告を行った。「広島市内巡回展「戦争を見てきた食器たちー広島大学構内から出土した文化財ー」」には、7月から2016年3月にかけて広島市の中区・東区・南区の8つの公民館で実施した巡回展の様子を、また「学内遺跡見学ツアー」には、11月に東広島キャンパスの遺跡を気軽に学ぶことを目的に実施した遺跡見学の様子について報告した。「文化財保護に関する講演会を開催」には、文化財保護について理解を深めることを目的に2015年度から開始した2回の文化財保護に関する講演会の様子について紹介した。

また、埋文の発掘この1年の欄には、「2015年度の広島大学構内における埋蔵文化財の調査と整備」として、2015年度の立会調査の成果や遺跡の整備活用について概要を報告した。



写真30 イベントピックアップ



写真31 埋文の発掘この1年

e. Facebook・ホームページ更新

調査部門での業務報告やイベント紹介などの情報を迅速に発信するため、2014年7月よりFacebookの運用を開始し、2015年度も継続して情報を発信した。ホームページについても、随時情報を更新した。

2) 調査資料および遺跡の整備・管理

a. 東広島地区：鏡西谷遺跡フェンス設置

実施面積：約 12 m²

実施期間：2016 年 11 月 10 日

担当者：石丸恵利子

委託業者：てらお建設・東光造園

実施内容：鏡西谷遺跡は南側の一部が生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの西条ステーション（農場）放牧地と隣接しており、時折放牧中の飼育牛を間近に見ることができる。遺跡と放牧地との境界にはフェンスが設置されているものの、現在の状態が遺跡活用において検疫上問題があると考えられたため、既設フェンスから約 50cm 遺跡の敷地側に並列して新しいフェンスを設置することとした。径約 10cm、長さ約 150cm の杉丸太を地上に約 120cm 残した状態で打ち込み、約 2m 間隔に 21 本を設置した。それらの杭間約 40m に渡り、2.5cm 四方の目で組まれたポリエチレン製のネットを取り付けた。



写真 32 フェンス設置前



写真 33 フェンス設置作業の様子



写真 34 フェンス設置 1



写真 35 フェンス設置 2

b. 東広島地区：陣が平西遺跡・山中池南遺跡第 6 地点・西ガガラ遺跡第 2 地点の説明板改修

実施期間：2016 年 12 月 16 日

担当者：石丸恵利子

委託業者：みづま工房

実施内容：東広島地区の遺跡保存区では、遺跡について説明した看板を鴻の巣南遺跡や鏡西谷遺跡などの 10 遺跡、遺跡名のみ看板を山中池南遺跡第 4 地点と新池遺跡の 2 か所に設置している。設置から長期間が経過し、いくつかの看板で変色や表面に亀裂が入っているものがあり、これらの改修を行った。陣が平西遺跡と西ガガラ遺跡第 2 地点の説明板は、いずれも劣化により表面の変色と亀裂が生じており、新しいアルミ製の説明板を古い面の上に貼り付けた。また、山中池南遺跡第 2 地点に遺構を移築している第 6 地点の説明板 2 か所については、一部説明文を修正して、同様に上面に貼り付けて改修した。



写真 36 山中池南遺跡第 2 地点看板改修作業の様子



写真 37 山中池南遺跡第 6 地点看板改修作業の様子



写真 38 西ガガラ遺跡第 2 地点看板改修作業の様子



写真 39 陣が平西遺跡看板改修作業の様子

c. 東広島地区：鴻の巣南遺跡復元住居・山中池南遺跡第2地点復元須恵器窯修復工事

実施面積：約 1.5 m²

実施期間：2017年3月9日

担当者：藤野次史

委託業者：中博建設

実施内容：復元住居内の矢板を固定する支柱、横木、固定縄が劣化したため、すべて撤去し、新しい部材を設置した。旧部材の撤去後、支柱根元を固定している部分の周溝埋土（ガンコマサ）を再掘削して既存の支柱（13本）を撤去し、新しい支柱を設置するための掘り方を掘削した。新しい支柱を設置し、支柱横木を麻縄で順次支柱に固定した。北端は土堤留のコンクリート枠の一部が落下しており、矢板の固定が不十分であるため、北端の支柱のさらに北側へ新たに掘り方を掘削して支柱を1本追加した。最後に支柱掘り方をガンコマサで充填・成形し、散水しながら整形した。

また、土堤外縁の土留板を固定している杭のうち、西側の杭が劣化し、土留板の固定が困難となったため、劣化した杭を撤去し、新しい杭に取り替えた。



写真 40 矢板留修復前の状況



写真 41 矢板留支柱掘り方掘削状況



写真 42 矢板留横木固定状況



写真 43 土堤土留修復状況

d. 東広島地区：山中池南遺跡第2地点復元須恵器窯修復工事

実施面積：2 m²

実施期間：2017年3月9日

担当者：藤野次史

委託業者：中博建設

実施内容：復元須恵器窯前庭部に設置した排水管が、前庭部の南側の土砂の流失に伴って露出したため、修復を行った。排水管およびその周囲に透水性の保護シートを敷き、釘で固定した。その上に真砂土を厚さ5cm程度盛り、転圧して整地した。



写真 44 透水性保護シートの固定状況



写真 45 盛土整地・転圧状況

e. 東広島地区：鏡西谷遺跡整備の芝張り（法面保護）

実施面積：250 m²

実施期間：2017年3月9日・21日・22日

担当者：石丸恵利子

委託業者：てらお建設・東光造園

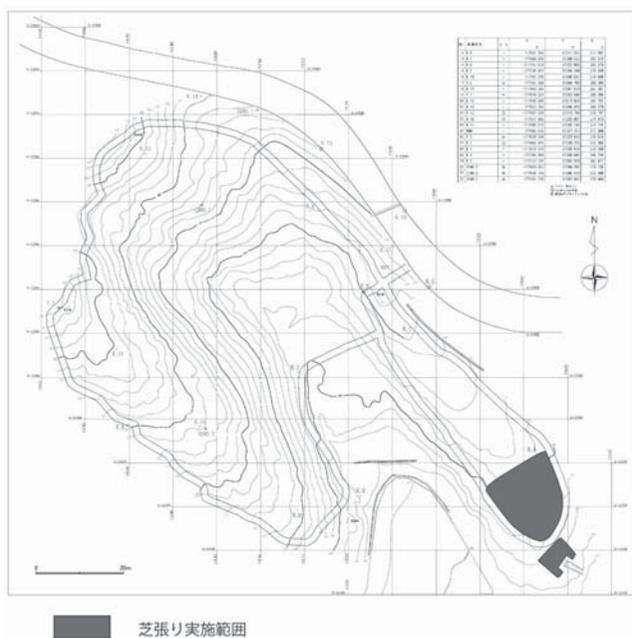
実施内容：昨年度より鏡西谷遺跡の保存と活用を目的に複数年計画で整備事業を開始している。鏡西谷遺跡ではすでに遊歩道が設置され、各所に遺跡の概要や遺構の説明板を設置しているが、昨年度の段階で、①保存区の地形の現状把握、②遺跡保護のための盛土・土止め、③中世遺構のレプリカ復元、④説明板設置の計画を立て、昨年度は①の地形の測量調査を実施した。当時検出された遺構は、調査時に出た掘削埋土のみで埋め戻されており、遺構面までの厚さは10から20cm程度だと考えられた。また、高まりの裾（現在の遊歩道の際）に土止めのための土嚢を並べるなどの処理しかしておらず、時間の経過とともに遺構面上部の土壌の流出が心配されていた。測量調査の結果、調査前と地形は大きく改変されていないものの、遺構検出面の標高とほとんど

変わらないことが分かり、早急に法面保護が必要であることが明らかとなった。

本年度は、次に計画されていた作業は盛土であったが、遺構面を最優先で保護したい場所への盛土の搬入が、予算的にも労力的にも非常に困難であったため盛土は行わず、法面保護のために現在の表土面にティフブレアの種子を貼り付けたシートを敷く方法で植え付けを行うことになった。施行の前には草刈りを実施して雑草を除去したが、遺構面を壊さないよう根の除去には極力土壌が掘り起こされないように注意して実施した。

本年実施した場所は、C地区の南側から約250㎡の範囲である（第12図）。段取りとしては以下の通りである。ティフブレアシートは網状のポリエチレンネットに水に溶けるポリエステル不織布シートが重ねられ、その表面に種子と肥料が貼り付いたもの（幅1m×10m/本）で、シートを敷く前に肥料（緑化専用バーディーグリーン）をまき、金属製の留め具で固定した。遺跡保存区に対して一度に施行できる範囲は狭小であるが、次年度以降も芝張りが必要な個所を優先して、より良い整備となるよう継続して実施する計画である。

- ① シルバー人材センターによる草刈り（地上面）
- ② 芝張り予定範囲の地下の伐根作業（重機と手作業）
- ③ 植え付け表面の整地
- ④ 施肥（緑化専用バーディーグリーン）
- ⑤ ティフブレアシート20本の敷設



第12図 芝張り実施範囲



写真 46 整備前の様子



写真 47 下草・根の除去作業



写真 48 ティフブレアシート設置作業 1



写真 49 ティフブレアシート設置作業 2



写真 50 ティフブレアシート設置後

f. 震地区：建物基礎の移築復元

実施面積：2 m²

実施期間：2017年3月30日・31日

担当者：藤野次史

委託業者：カジオカ LA

実施内容：薬学部西側の立体駐車場建設に伴って検出した広島陸軍兵器支廠（補給廠）遺構の移設復元である。これまでに、石組柵、石組排水路の2基を復元しており、今回の復元作業で一連の移築復元は完了である。既存の復元遺構（石組排水路）の南側2mの位置に、東西2m、南北1mのコンクリートブロック枠を設置して、枠内に建物遺構の花崗岩製礎石3基（1基は扉軸受部）を移設した。礎石3基を東西方向に等間隔で設置し、コンクリート床面上に礎石上面を露出させ、検出時の状態を復元した。また、北側の西半分と西側はコンクリートブロック枠を設置せず、アクリル板で固定して、床面下の割栗事業の様子を復元展示した。



写真 51 外枠モルタル塗り作業



写真 52 ガンコマサの充填・成形作業



写真 53 完成状況

g. 東広島地区：保存区の草刈り整備

毎年、東広島地区の遺跡保存区では、東広島市シルバー人材センターに依頼して草刈りを実施している。鏡西谷遺跡、西ガガラ遺跡第1地点、山中池南遺跡第2地点、新池遺跡の草刈りを、以下の日程で実施した。

山中池南遺跡第2地点 2016年6月23日（6.5時間×5名）、7月30日（3.5時間×4名）、2017年3月14日（6時間×6名）

鏡西谷遺跡 2016年11月7日（4時間×5名）、2017年3月3日（7時間×5名）・4日（4時間×7名）・28日（4時間×5名）

西ガガラ遺跡第1地点 2017年3月4日（3.5時間×7名）

新池遺跡 2017年3月8日（1.5時間×3名）

3) 遺跡・遺物の整理・利活用

a. 遺物の整理

遺物整理は、今年度の立会・試掘で出土した資料の洗浄、ナンバリング、接合作業に加え、鏡西谷遺跡や鏡千人塚遺跡出土の中世鍋・釜の実測およびトレース作業を行った。また、出土鉄製品の所蔵一覧表の作成、脱酸素剤及びインジケーターの入れ替え、山中池南遺跡第2地点の1号住居跡と須恵器焼成窯跡灰原採取土からの鍛造剥片等の鍛冶関連微細遺物の抽出作業も行った。

図面整理としては、報告書Ⅲ（山中地区）、報告書Ⅳ（アカデミック西部地区）、報告書Ⅴ（陣ヶ平地区）に掲載した図面の整理を行った。そのほか、調査関連写真の整理として、西ガガラ遺跡や鴻の巣遺跡のネガフィルムおよびカラースライドの整理を行った。

b. 資料の貸し出し・利用

今年度は以下の利用があった。

西ガガラ遺跡第1地点・第2地点、山中池南遺跡第2地点出土旧石器時代遺物の見学

利用者：中村由克（明治大学）

利用日：2016年7月20日

c. 資料の寄贈受け入れ

今年度は以下の寄贈受け入れがあった。

陶磁器製のはかり一式

資料の概要：第二次世界大戦中に製作・使用されたと考えられる陶磁器製のはかり（錘部分が陶製で尺は木製）1点

寄贈者：貞森英男（広島市）

受入日：2016年5月6日

軍用食器（海軍食器）

資料の概要：第二次世界大戦中に製作され、海軍で使用されていた陶磁器製の碗

寄贈者：吉本修二（広島市）

受入日：2016年5月25日

斎藤コレクション

資料の概要：考古資料および陶磁器資料（縄文土器1点、古墳時代土師器1点、古墳時代須恵器1点、陶質土器4点、中近世陶器：備前焼ほか8点、近世磁器3点、陶製手りゅう弾1点）

寄贈者：齋藤寛（呉市）

受入日：2016年12月13日

4) 社会貢献・普及活動

a. 第51回フィールドナビ「春のキャンパス遺跡めぐり」（実施日：2016年4月9日）

東広島キャンパスの遺跡や地域の文化財への理解を深め、同時にキャンパスの自然に触れるフィールドナビを開催した。キャンパスの遺跡巡りを中心としたフィールドナビとしては第3回目となる。

今回は中央図書館をスタートし、山中池南遺跡第2地点（古墳時代後期の住居跡・鍛冶工房跡・須恵器焼成窯跡など）、山中池を經由して鏡西谷遺跡（弥生時代中期後期の住居跡、中世の住居跡など）までを歩いて散策し、そこからはバスを利用して中世山城の鏡山城跡を南方から望みながら西ガガラ遺跡第1地点（旧石器時代・縄文時代）と新池遺跡（旧石器時代・縄文時代）を車窓から眺めて見学し、最後にバスを降りて鴻の巣南遺跡（弥生時代後期）の復元竪穴住居を見学したのちに埋蔵文化財調査部門の展示室に至るコースを設定した。

東広島キャンパスは広大な敷地面積を誇り、その中には多くの遺跡が保存区として残されている。それらをすべて歩いて見学することはとても大変であり、今回は徒歩に加えてバスを利用して要領よく多くの遺跡を見学できたことは、キャンパスの広大な自然と文化財の存在を実感できるものであったと言える。参加者アンケートでもおおむね良好な意見をいただき、これからも内容を工夫しながら継続していくことが重要だと考える。



第13図 フィールドナビのチラシ



第14図 フィールドナビ遺跡マップ



写真54 山中池南遺跡第2地点見学の様子1



写真55 山中池南遺跡第2地点見学の様子2



写真56 鏡西谷遺跡見学の様子



写真57 鏡西谷遺跡での集合写真

b. 公開講演会「広島大学の自然環境と文化財保護」(第3回文化財保護に関する講演会)(実施日:2016年10月27日)

文化財保護に関する講演会は、広島大学生の文化財保護法違反により、東広島市教育委員会から広島大学に対して、学生への文化財保護法の周知と指導の申し入れがあったことを契機に、学生生活委員会と総合博物館が主催して昨年度より実施している。昨年度は2回実施し、今回が3回目となる。今回は環境マネジメント委員会とも共催し、キャンパスの自然環境と文化財保護についての理解を深めるために、それぞれの分野の専門家から以下のような講演をしていただいた。参加者は70名であった。講演後にはオプションとして、鴻の巣南遺跡から発見の小径を通して山中池南遺跡第2地点をめぐるキャンパスの自然と遺跡見学会を実施した。

文化財は貴重な国民の共有財産であり、我々はそれらを保護して未来に残していく責任がある。全学の学生や教職員に対する文化財への理解と文化財保護法の周知は広島大学の責務であり、今後も埋蔵文化財調査部門が率先して教育普及することが必要である。

講演1 東広島キャンパスの里山保全

講師:塩路恒生(広島大学技術センター)

講演2 文化財保護の目的と意義

講師:沖 憲明(広島県教育委員会事務局管理部文化財課)



第15図 講演会のチラシ



写真58 講演会の様子



写真 59 講師発表の様子 1



写真 60 講師発表の様子 2



写真 61 発見の小径見学の様子



写真 62 遺跡見学の様子

e. その他の依頼事業

中学生職場体験（2016年10月5日）

広島県立広島中学校の3年生3名の職場体験の受け入れを行った。博物館としての受け入れは10月3日から7日の5日間であったが、そのうち半日を埋蔵文化財調査部門で対応した。展示室において遺跡の発掘調査の意味や出土した遺物の説明をしたのちに、整理室において出土資料が報告や展示されるまでの一連の作業について説明を行った。その後、実際に行われている作業の一部（遺物のナンバリング、接合作業、拓本）を体験してもらった。

資料が展示されるまでには、それまでに裏方でさまざまな見えない作業が行われていること、また博物館施設として資料の出自などをきちんと整理して記録や報告をし、保管や展示が行われていることなどのさまざまな仕事があること、また文化財の意義などを少しでも知ってもらえたのではないかと期待する。



写真 63 職場体験土器接合作業の様子



写真 64 職場体験拓本作業の様子

郷田小学校見学（2016年12月1日）

今年度も郷田小学校の6年生2クラスが見学を訪れた。博物館本館、埋蔵文化財調査室展示室、鴻の巣南遺跡、図書館を1クラスずつ順番に見学し、埋文では展示室においてキャンパスの遺跡や出土遺物の解説をおこない、整理室においては考古資料の実測について実際に遺物や道具、図面などを触ってもらいながら作業について説明した。また鴻の巣南遺跡において、復元した竪穴住居の構造や弥生時代の暮らしについて解説を行って対応した。



写真 65 整理室見学の様子



写真 66 鴻の巣南遺跡見学の様子

2. 2016（平成 28）年度の教育活動

1) 学芸員資格取得特定プログラム

藤野次史 博物館概論
博物館経営論
博物館資料論（4 回分担当）
博物館実習 1（8 回分担当）
博物館実習 2

2) 教養教育

藤野次史 東広島キャンパスの自然環境管理（1 回分担当）

3. 2016（平成 28）年度の個別研究活動

≪藤野次史≫

（論文・資料報告）

藤野次史 2016 年 12 月「中・四国地方における角錐状石器石器群から見た石材需給」
『広島大学大学院文学研究科 文学部考古学研究室 50 周年論文集・文集』広島
大学大学院文学研究科考古学研究室 55 - 72 頁

（研究発表・講座）

藤野次史 2017 年 3 月 4 日・5 日「地域石材研究の意義—広島県西条盆地の石器群を
めぐって」第 8 回石材のつどい（公財）石川県埋蔵文化財調査センター：口
頭発表

藤野次史 2016 年 7 月 30 日「土器の話」東広島市「親と子の体験歴史村」東広島
市小田地域センター：口頭発表

（その他）

資料調査：東京都国分寺市武蔵台遺跡出土旧石器時代石器群の調査 東京都国分寺市
武蔵台遺跡発掘現場 2016 年 5 月 30 日

資料調査：西条盆地周辺の石材調査 東広島市・竹原市 2016 年 7 月 21 日

資料調査：東京都明大和泉校地遺跡、下原・富士見町遺跡出土旧石器時代石器群の調
査 明治大学博物館 2017 年 2 月 18 日

資料調査：石川県灯台笹下遺跡ほか石川県出土旧石器時代石器群の調査（公財）石川県埋蔵文化財センター 2017年3月3日

指導委員会：（公財）広島県教育事業団埋蔵文化財調査指導委員会議（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室 2016年5月26日

指導委員会：（公財）広島市文化財団埋蔵文化財発掘調査指導委員会（公財）広島市文化財団文化科学部文化財課 2016年8月26日

委員会：広島県博物館協議会 広島県立美術館 2016年8月31日

調査指導：三次市奥山製鉄遺跡調査指導 三次市君田町 2016年10月6日

調査指導：広島市広島平和資料館耐震工事調査地点調査指導会 広島市 2017年2月26日

審議会：岩国市文化財審議会 岩国市サンライフ岩国 2017年3月27日

《石丸恵利子》

（著書・論文・資料報告）

Soichiro Kusaka, Eriko Ishimaru, Fujio Hyodo, Takashi Gakuhari, Minoru Yoneda, Takakazu Yumoto, Ichiro Tayasu 2016 September Homogeneous diet of contemporary Japanese inferred from stable isotope ratios of hair. *Scientific Reports* 6, Article number 33122

松井 章・石丸恵利子 2016年10月「ナマズの考古学」『ナマズの博物誌』秋篠宮文仁・緒方喜雄・森誠一著・編集 誠文堂新光社 386 - 401頁

石丸恵利子・大近美穂 2017年3月「鏡千人塚遺跡・鏡西谷遺跡出土の中近世煮炊具について」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第8号 広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門 1～42頁

（研究発表・講座）

石丸恵利子 2016年4月16日・17日「中国四国地方の近世城下町跡にみられる動物資源利用と食文化」考古学研究会第62回総会・研究集会 岡山大学：ポスター発表

石丸恵利子・覚張隆史・申基澈・米田 穰・陀安一郎・中野孝教・湯本貴和 2016年6月4日・5日「関東地域における縄文時代の漁撈域・狩猟域－炭素・窒素

およびストロンチウム同位体分析による検討」日本文化財科学会第33回大会 奈良大学：ポスター発表

石丸恵利子・大近美穂・西口祐子 2016年6月30日・7月1日「展示室を飛び出して 構内遺跡整備と出土資料を利用した地域社会との関わり」大学博物館等協議会2016年度大会・第11回博物科学会 広島大学：ポスター発表

佐藤大規・清水則雄・石丸恵利子・藤野次史・岡橋秀典 2016年6月30日・7月1日「IT機器を利用したエコミュージアム整備の試行」大学博物館等協議会2016年度大会・第11回博物科学会 広島大学：ポスター発表

Eriko Ishimaru, Soichiro Kusaka, Ki-Cheol Shin, Takanori Nakano, Takakazu Yumoto 2016. Aug. 28 ~ 30 Identifying hunting area of the Jomon period by Strontium isotope analysis: A case study from Kyushu region, Japan. World Archaeological Congress WAC-8 Kyoto Kyoto Doshisha University : poster presentation

石丸恵利子 2016年9月24日「動物考古学事始め—発掘された四日市の食事—」東広島郷土史研究会9月例会 東広島市市民協働センター：口頭発表（依頼）

石丸恵利子 2016年11月26日「広島城武家屋敷の食事と暮らしの中の動物たち」公民館公開講座 広島市中区舟入公民館：口頭発表（依頼）

（外部資金獲得）

科学研究費基盤研究C「近世城下町の資源利用と文化・流通に関する動物考古学および同位体考古学的研究」：研究代表者

科学研究費基盤研究C「発掘人骨の古病理学的ストレスマーカーに見える性別役割」（研究代表：藤澤珠織）：研究分担者

共同研究「遺跡から出土する貝類の産地判別と環境データの構築」H28年度総合地球環境学研究所同位体環境学共同研究：研究代表者

（その他）

資料調査：科研費にかかわる遺跡資料（松江城下町遺跡の動物遺存体）の調査 松江市教育委員会・松江市スポーツ振興財団 2016年6月9日・10日

調査指導：吉田遺跡（山口大学吉田キャンパス内）出土の動物遺体の研究・調査指導 広島大学総合博物館 2016年9月1日～10月31日

調査指導：麓Ⅱ遺跡ほか出土の動物遺存体の研究・調査指導依頼 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2016年9月30日

調査指導：下岡田遺跡試掘調査の立会および出土動物遺存体の研究・調査指導依頼 府中町教育委員会 2016年10月19日

調査指導：高松城跡（高松北警察署）発掘調査によって出土した動物遺存体の研究・調査指導 香川県埋蔵文化財センターほか 2016年10月21日～2017年2月28日

調査指導：福山市御領遺跡第7次調査の弥生時代貝類の同定等について研究・調査指導 広島県教育事業団 2016年11月30日

実験分析：共同研究にかかわる貝類の同位体分析（資料測定） 総合地球環境学研究所 2017年2月6日～10日

資料調査：科研費にかかわる遺跡資料（熊野堂・林ノ前遺跡の人骨および動物遺存体）の調査 八戸市埋蔵文化財センター 2017年3月15日～18日